

〔曇花院殿装束抄〕一くろだなのをき物の事略○中

二ぢうめにすみあかもとゆひのはこわきのぢうに御はぐるみのはこわたし木くれなるのうすやうにつみて下のぢうにやはくのかみうへにぶむちむ置べし

〔姫入記〕よめ入の條々

一もとゆいばこ是も手ばこのごとくほそくしたる物なりさしもといの入なり

〔女郎花物語〕中くろ棚にはもとゆひのはこにすみあか水ひき箱わたし御はぐるばこなどよのつねのさまなるべし

〔國花萬葉記〕武藏下江府名匠諸職商人

髻結屋 淺布 長坂 堺町よし町 其外

〔雅亮装束抄〕御もとよりをとること

御くしのはこのふたにかみをしきてもとゆひ御くし二三枚かうがいかばさみをいれたりとることつねのごとしたゞし御もとゆひをのごふことはまづかみをすこしやりてほそくたみてびんぎならんかけがねのつばにひきとほしてはなづらのやうにむすびてそれより御もとゆひをひきとほしてすゑをとりあはせてひろきかみをたうがみのやうにみつにたみてわなのところを御もとゆひふたすぢがなかにいれてひきのべてのごひて御もとゆひのなかのほどをぞもとつけたるはなづらのやうなるかみにきしくとすりのごふやうにうらうへのすゑをとりてすべし御くしのはこのふたををきて御もとゆひのすゑを六七寸ばかりををきてひだりの手してとりてさりげなくてながきかたを右の手してひだりのひぢのほどにおしあててとりてそこをきとひねりてをきてそこよりもたまきはじめをばしそめていつからまきおほくてなからまきにすぎずもたまきおほかればもとよりのとくぬくるな